

# 大門坂

11月臨時号 月田小学校だより

平成29年11月2日(木) 校長 小林幸雄

## 月田を思い、月田を愛する子に…

学習発表会の全体練習が始まった日の朝、月田を離れ、ふるさとのことを思いながら綴った文章を子どもたちに読み聞かせました。

台風の影響で少し冷たく感じる体育館の床に座ったまま、子どもたちは静かに耳を傾けます。

秋になり、だんじり祭りが近づく頃、キンモクセイが香る月田の町が、私は大好きでした。(中略)

帰省していつも感じるのは、近所や月田の皆さんが、いつも笑顔で「佐百合ちゃんお帰りなさい」と声をかけて下さる事です。温かい気持ちになると同時に、ああ私の帰る場所はここなんだと思える瞬間でもあります。(後略)

景 佐百合さん(市場上出身・現住所大阪市)のふるさとへのメッセージです。

彼女は、次の一文で締めくくっています。

「ふるさと」が月田であることを、私は誇りに思います。

ふるさとに心を寄せる景さんの思いが強く伝わる言葉です。コミュニティ便りには、毎号、このように月田に寄せる熱い思いが綴られています。

合わせて徳島在住の森 恵美さん、岡山県に戻ってきたという川元克彦さんのエピソードを子どもたちに簡単に紹介しました。

このような人のように、月田を思い、月田を愛する人になってほしいなあと思います。

と子どもたちに語りました。

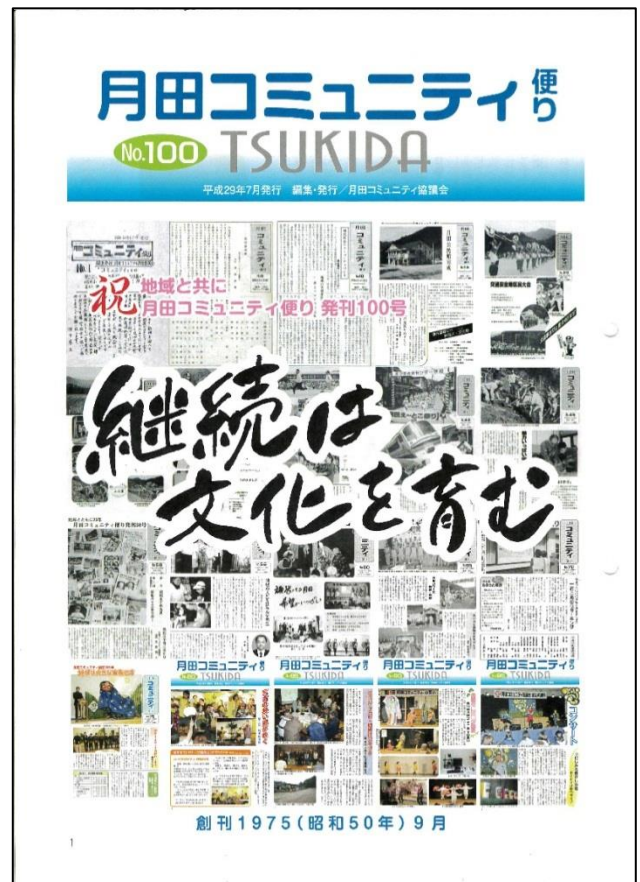
最近、月田の自慢がまた1つ増えました。

皆さんご存知のようにコミュニティ便りが100号に達したことです。出張で一日学校を留守にした翌朝、学校に来てみますと嬉しいことに101号の最新号が届いていました。

月田コミュニティ便りは、先に紹介した「ふる

さとへのメッセージ」の他に、「子育て奮闘記」、「昭和の証言」、「イキイキ人生」、「ふる里」、「サークル紹介」、「雑感」、「希望」など、誌面が多岐にわたり実に充実しています。

また、執筆者も子どもから高齢の方まで幅広いのが、大きな特徴です。



「ふるさとへのメッセージ」のように月田を離れている方にも原稿を寄せていただくという編集の方針はとても素晴らしいことです。月田を離れている人にとって、このようなふるさとの便りを目にすることは、心の大きな支えとなります。

また、コミュニティ便りが、100号まで発刊されたことは、まさに奇跡であり、快挙であります。

近日中に100号発刊記念誌『月田の郷』が発刊されるとのこと。これはもはや月田の宝です。

その内容は、学校現場にとっても貴重な学習の資料となります。

郷土を愛する心を育てる道德の教材にもなります。また、3～4年生の学習や6年生の歴史とも関わりのある内容が満載されています。

月田っ子宣言にも「ふるさとを愛し年上の人を敬います」とあります。ふるさとの良さを知る上でも、貴重な一級品の教材であると思うのです。

## 月田っ子宣言の活用

校訓「敬天愛人」を活かした学校づくりを推進しているところです。

「敬天愛人」について、月田の方々から認知される度合いが少しずつ上がっているなあと感じるがあります。先日の月田老人クラブのスポーツ大会でも、わざわざ私に「敬天愛人」に関する新しい情報を知らせてくださった方もいます。



<10月20日(金) 秋の遠足 春日神社の前で…>

「天を敬い人を愛する」…簡単に言えば、「世のため人のためにこそ学ぶ」という崇高な教えです。この高い境地に到達するには、己の弱い心に克たなければなりません。弱い心・なまけ心・くじけそうな心を射貫く5本の矢。それが「月田っ子宣言」です。

9月の始め、先生方に以下のようなアンケートをお願いしました。

「月田っ子宣言」や「敬天愛人」を策定した後、ほんの少しでも変わったという点があれば、教えてください。どんなささいなことでも構いません。  
○子どもたちについて…  
○先生自身について…

すると、つぎのような記述が戻ってきました。

<子どもたちの変化>

・やる気をなくしたりへこたれそうになったりした時「少々のことではへこたれません！だね。」と自分で意識し始めた。

・卑怯なことはいけない…ということはよく意識できている。

・子どもたち同士でアドバイスし合う時に、「ていねいさを身につけるって月田っ子宣言に書いてあるが！」と月田っ子宣言を使っている。納得して相手の子も聞いている。

・特に「少々のことではへこたれません！」は、よく口にしていって励まし合いながら活動している。

・子どもが少しへこたれているときに「少々のことではへこたれません。」と言うと少し復活することがある。

・授業中に何かあった時“あきらめません”とか“ていねいに”等月田っ子宣言を指している、素直に「はい」と返事をしています。細々とした注意ではなく、月田っ子宣言を示すことで自分のいけないところに自分でも気付けるようになってきた気がします。

<先生方の変化>

・学校で共通して指導できるのが有り難い。

・ぶれることがなく、子どもたちも文句を言わず納得してくれる。

・「夢に向かって努力し、少々のことではへこたれません」は、自分の中でも復唱することがある。

・学校生活の中で月田っ子宣言について話をする場面が多く、指導のしめの言葉として唱えることが出来るようになった。

・指針があるので指導しやすい。軸を持って指導できると感じている。

以上のように、予想通り、先生方の指導の軸となってきているようです。また、ささやかではありますが、昨年度までとは違う子どもたちの変化が今後も楽しみであります。



<10月25日(水) 人権の花の種配り>